

# 柏崎刈羽7号機 核燃料装填開始

地元同意前

東京電力は15日、2011年の福島第1原発事故後、初の再稼働を目指している新潟県の柏崎刈羽原発7号機の原子炉に核燃料の装填を始めた。「検査の一環」としており、24時間態勢で進めて完了は約2週間後の見通し。新潟県の花角英世知事は再稼働に同意するかどうかを表明していないが、福島事故後に再稼働した6原発12基は地元の同意後に装填しており、同意前は異例だ。

1月の能登半島地震を踏まえ、原発事故と自然災害が重なった時に避難路を確保できるのか不安が高まっている。説明を尽くさず再稼働を急ぐ動きに、東電や政府への反発が強まる可能性がある。

作業は原子力規制委員会が15日承認した。